

新・東大阪病院画像検査設備のご案内

2023年10月2日オープンの新東大阪病院では、画像検査装置の新規導入を含めてさらなる検査の充実を目指しております。

今回は先生方からのご紹介の一番多い画像検査に関して、新規導入や移設も含めて全ての画像検査機器をご紹介します。

<新病院1階案内図>



上記図面は新病院の1階案内図です。
お示しの通り1階奥に画像系検査がまとまっており、患者様にはわかりやすい配置になっております。

新病院に設置致しますそれぞれの画像検査装置についてご案内させていただきます。

MRI撮影装置【Canon社製1.5T DLR-MRI「Vantage Gracian」（新規導入）】

新病院にて新規導入予定のMRIの特徴は「AI」による学習機能を用いた技術“AiCE”を搭載している点です。この技術によってさらなる高画質な検査が可能になります。

従来では、分解能（画像の細かさ）を向上させるとノイズが増えてしまっていたますが、AiCEによる高いノイズ低減効果によって画質を上げ、鮮明にすることができます。



CT撮影装置【SIEMENS社製 SOMATOM go.Top（64列）2022年9月導入（移設）】

昨年導入したCTは、前機種と比べて被ばく線量の低減（最大1/50の線量）出来ることが特徴です。

また、画像処理能力の向上により、体内金属によるアーチファクトの低減や低電圧・高電流撮影により画像のコントラストが向上しました。

撮影した画像はCTと同時に導入した3D画像解析システムSYNAPSE VINCENTで各種画像処理や3D画像などを作成し、診療制度の向上に貢献いたします。



エックス線TV撮影装置【Canon社製Ultimax-i（新規導入）】



新しいエックス線TV装置はフラットパネルを搭載しており、従来の装置に比べて照射線量が約65%低減します。各種技術により、高画質を保ちながら低線量化になります。

そして撮影の天板ですが、幅が60cm、長さが231cmとゆとりがあるため、検査中の体位変換も安心して行えます。

また、天板が床上52cmまで降下するため、車いすやストレッチャーから移動の際には乗り降りしやすく、患者様の負担が大幅に軽減します。

骨塩定量検査装置【X線骨密度測定装置「B-Cube」（新規導入）】

前腕によるDXA方式の骨密度測定を導入します。

X線線量は胸部レントゲン撮影の約1/10で測定が可能で、測定時間も約15秒と短時間です。装置のデザインがオープンで開放的になっており、お年寄りや体の不自由な方、椅子をご利用の方でもムリなく測定ができます。



一般撮影エックス線装置【フラットパネル装置（移設）】

一般撮影は立位・臥位ともにフラットパネル装置を備えております。

フラットパネルは撮影後すぐに画像を確認することができ、患者さんをお待たせしません。

また、撮影時には適正な条件での撮影をすることで被ばく低減を行っております。

新病院では、「より分かりやすい画像」「より正確な所見」「より早い検査結果報告」を実現するために放射線課一同全力で取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

東大阪病院 地域医療連携部

直通TEL

06-6932-0369

直通FAX

06-6932-0086

東大阪病院（代表）

大阪府大阪市城東区中央1丁目7-22

TEL:06(6939)1121 FAX:06(6939)1191